春の上峰山に登ろう

2023年4月8日訪問　　小川　浩

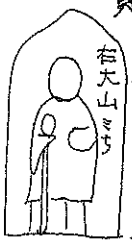
宝永8年 1711年 庚申塔

新大宮バイパス上峰交差点にある石仏の1つ。元々は羽根倉道へ降りバス停付近にあったといわれています。
台の側面は道標となっており、左側面には「ニホリ 江戸みち」右側面には「コホリ 知うだいみち」と彫られています。

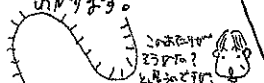
庚申塔・青面金剛像

山梨県や神奈川県へのような遠方への道標があるということは、この羽根倉道が、当時はいかに大きな道路であったかということがわかります。

寛政12年 1800年 地蔵菩薩像



神奈川県大山の阿夫利神社への道標として「右大山ミち」と彫られています。
当時、江戸では大山参りがブームでしたが、コロナにより、ずいたまでも参詣者が多かったことがわかります。

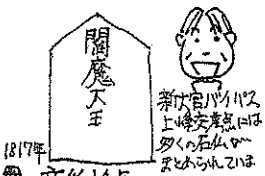


上峰山（上峰の台地）

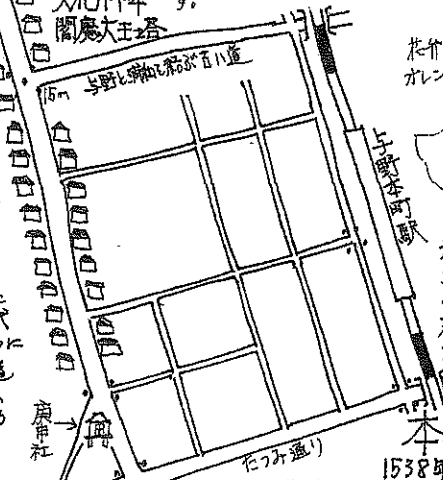
新大宮バイパスの西側に南北に細長く伸びる台地と思われます。

与野の街並

与野へ街は古くから続いた市場の街でした。室町時代には大きな市も開かれるようになったようです。今も羽根倉道に面した家の前では昔の市の名残りでスペースがあるところも見られます。

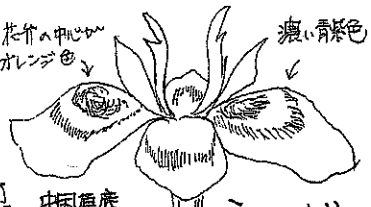


文化14年 閻魔大王塔



上峰の野草

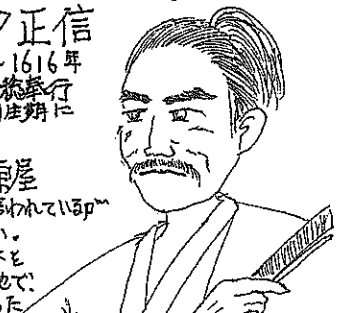
スズメノエンドウ　ハハコグサ　アカツメクサ　カタバミ
カラスノエンドウ　ハルノノゲシ　キュウリグサ　アズマイ
マツバウンラン　コバンソウ　セイヨウタンポポ
オランダミミナグサ　ヤツネアザミ　オオイヌノフグリ
アメリカフウロ　シロツメクサ　ヒメオドリコソウ



シャガ

中国原産。かなり古い時代の外来種。やや湿った森に見られる。春にうす紫色の花を咲かせる。

本多正信 1538年～1616年



徳川家康家臣。関東統率行として、江戸幕府の創生期に治政をつくしました。

上峰陣屋、新畑陣屋

どちらも本多正信の陣屋と言われていますが確かな記録は残っていない。
上峰陣屋の西側は崖下を古入間川が流れる低地で、防御的にも要地であったと思われる。周辺は戦国期の館跡が多く、当時から交通往来の盛んな町であったことがわかります。

本多正信の本拠地は神奈川県の玉縄城であったといわれています。逸く南西した与野に正信の言い伝えがあるということは、関東を江戸を中心に警備するために、与野が重要な地であったことがわかります。その後与野は日野から栗正への奥州道脇街道、江戸から中山道と経由しての川越脇街道としてますます発展していきます。

古入間川

江戸時代以前は、荒川は、今の元荒川の河道を流れていました。その頃、さいたま市の西側を流れていたのが古入間川です。古入間川は大宮台地の西から南の縁を流れています。荷物を運ぶのに船を使っていた時代は、古入間川は水運で流通の主になっており、川の近くにたくさんの人々くらしていました。そのため古入間川沿いには古墳がたくさんみられます。

ウマノスズクサ

馬の鈴草　ウマノスズクサ科

多年生のつる草。初夏～夏にサックスホーンのような形をした花を咲かせる。花には悪臭があり、ハエなどを集めて受粉します。有毒植物ですが、ジャコウアゲハの幼虫の食草でもあります。